

時間割コード	G2B45808	開講年度	2026				
授業題目	価値創造実践ゼミ					担当教員	林 靖人
英文授業名	Action Learning for VALUE CREATION						大島 正幸
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・5時限	対象学生	全
講義室	共通教育46講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	
備考						備考	全学横断特別教育プログラム LIDコース及びSDコース スタートアップ授業
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	大学D P						
	的確に情報を収集し、理解し、発信する力					⇔	大学（学部/学士）での学びにおけるリテラシー（基礎学力/根幹的能力）として、オーナーシップ（主体性）を持って問題発見・課題設定し、課題をやり抜く力を獲得する。また、問題に対して机上の資料調査だけでなく、現場に出て、当事者と交流することで理解を深め、問題解決や価値創造する力、情報発信する力を実践的に獲得する。
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、芸術文化、環境共生、多文化協働、健康長寿、防災減災、キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、環境マインド実践人材養成コース、ストラテジー・デザイン人材養成コース、ライフクリエイター養成コース、グローバルコア人材養成コース・BASIC(日本理解)						
(4)授業の概要	本授業では、地域・社会の現場で問題発見能力や解決手段についての実践知を獲得し、新たな価値創造の経験知を獲得することを狙う。具体的には、JR東日本長野支社との連携事業に参画し、調査・企画・提案・実践を行う。本授業は座学中心ではなく、演習や実践を中心とするため積極的な授業参画の姿勢が必要となる（例えば、グループでのディスカッション、共同作業やプレゼンが必要となる）。また、通常の授業時間外（土日や平日空き時間等）で地域にフィールドワークに出かけたり、実証実験を行う。通常の授業よりも参画コストは大きいが、実際の企業と在学中からリアルな経験を学びたい（通常できない経験）、将来のキャリア形成に必要な知見を得たいと考える者の参加を求める。 ◎JR東日本長野支社との共同実施について 本授業は、JR東日本長野支社のご協力により実施することを予定しています。授業にはJR東日本の社員が参加し、松本駅等を中心にアクティブ・ラーニング/アクションリサーチ形式で授業を実施します。また、途中あるいは特別回としてJR東日本各支社が他地域の大学と取り組む事業（授業）等と連動することもあります。 なお、本授業は、①担当教員（起業経験/企業実務経験あり）②外部講師（実務者）により実施され、管理やメンターによるグループ指導体制の都合から、受講者数は20名程度とします。						
(5)授業のキーワード	心理学、感性情報学、マーケティング・ブランディング、地域ブランド、ブランド、地域志向、地域課題、地域再生、地域活性化、地方創生、観光人材育成、地域志向、地域活性化、地方創生、文部科学省、COC、ENGINE、SPARC、ShinXia、全学横断特別教育プログラム、LIDコース、ローカル・イノベーター養成コース、SDコース、ストラテジーデザイン人材養成コース、アントレプレナー育成、起業、ベンチャー、スタートアップ創出、実務経験、グループワーク、レポートのフィードバック						
(6)授業計画	・第01回（09月29日）：ガイダンス（授業概要、前年度取り組み等紹介） ・第02回（10月06日）：基礎知識学習1 JR東日本の事業概要説明（※事例等学習） ◎フィールドワーク①：新たな観光価値発見フィールドワーク実施（10月初旬） ・第03回（10月13日）：基礎知識学習2 観光振興事例（ゲスト講師） ・第04回（10月20日）：フィールドワーク準備（フィールドワークの視点、手法等について） ・第05回（10月27日）：フィールドワーク②プランニング（+プレゼンスキル学習） ・第06回（11月10日）：フィールドワーク②プランのプレゼン、精緻化 ◎フィールドワーク②実施 ・第07回（11月17日）：フィールドワーク②まとめと報告（問題発見・分析・構造化から課題設定へ） ・第08回（11月24日）：フィールドワーク③ 問題設定を中心とするプランニング（5W1H整理） ◎フィールドワーク③実施 ・第09回（12月01日）：課題設定の精緻化（5W1H整理）、解決策（シカケ）検討 ・第10回（12月08日）：解決仮説の検証プラン設計（必要に応じて：ゲスト実践事例紹介） ・第11回（12月15日）：企画書の作成（テンプレ学習）+実行に向けた関係者調整・実行 ・第12回（12月22日）：企画書の作成（テンプレ学習）+実行に向けた関係者調整・実行 ・第13回（01月05日）：企画書の作成（テンプレ学習）+実行に向けた関係者調整・実行 ・第14回（01月12日）：実行・まとめ（改善） ・第15回（01月19日）：実行・まとめ（改善）※授業評価 ・第16回（02月02日）：報告会プレゼンリハーサル① ・第17回（02月09日）：報告会プレゼンリハーサル② ◎事業提案報告会（予定：2月中下旬） （備考） ・授業の進行状況やパートナー企業等の事情により内容・日程は変更することがあります ・地域でのフィールドワーク等において掛かる費用（交通費・昼食代等）は自己負担となります						
(7)成績評価の方法	以下の〔1〕から〔3〕の総合点を基に判定を行う 〔1〕 プレゼン等の資料作成・課題提出（5回×10点＝50点満点） 〔2〕 各回のきづきの記載（10回×5点＝50点満点） 〔3〕 最終発表（リハ・報告会参加）（20点）						

(7)成績評価の方法	○各回の事前学習・事後学習レポートは、計10点満点で評価する。 ○成績評価の得点上限は100点とします ○連絡/事情なく欠席する場合は1回ごとに5点マイナスをします。 なお、〔1〕の各評価は、以下の観点から評価し、積み上げる。 ・適切な日本語、文章表現、図解等で説明することができている(文章能力)…3点 ・適切な問題分析、課題設定、解決に向けた提案等を構造的に示せている(企画構想力)…4点 ・先行事例や研究等を適切に参照・引用し、企画を精緻化できている(研究能力)…1.5点 ・自身の考え・新しい見解を提案し、教員を感心させることができる(独創力)…1.5点
(8)成績評価の基準	総合的な評価点は次のように位置づけられる ■90点以上:秀(基準から卓越している) ■80点以上:優(基準よりも、かなり上にある) ■70点以上:良(基準よりも、やや上にある) ■60点以上:可(基準を満たしている) ■59点以下:不可(基準を満たさない)
(9)事前事後学習の内容	・本授業は2単位科目であり、学修要件として90時間が必要とされています。そのため授業時間に加えて、理解を深めるために授業時間外で60時間以上の学びが必要となりますので、積極的に様々な知識を身に付けるよう努力をしてください。 ・事前学習及び事後学習時の資料づくりについて：予習・復習のレポートをまとめる際に、自身の考えだけでなく、それを補強・裏付けするための各種データや画像等の引用を行うことが求められる。引用時には出典を明らかにし、自身の考えと引用部分が明確に分かるようにすること。 ・授業参加への態度について：演習形式、グループワークなどを取り入れるため授業参加への態度を評価に加える。積極的なコミットメント(率先して発表するなど)は加点とするが、非協力的な態度等についてはマイナスすることもある。 ・授業時間とは別に地域を知るためのフィールドワーク(自主的なリサーチ・イベント実施)や研究成果を報告する場(事業提案報告会など)を設定する予定である。授業外の課外活動的な位置づけではあるが、授業内容と深く連動しており、その後の学びにも大きな影響を与えるため、原則参加を想定すること。
(10)履修上の注意	・本授業は、信州大学が設置する選抜型の副専攻コース「全学横断特別教育プログラム(X-FACT)」のスタートアップ科目に設定されています。受講希望者が多い際には、同コースへの参加希望者を優先することがあります。 ・本授業では、「主体的に考え、地域・社会を創造する志向」を養うことを目指します。そのため、授業を受講するにあたって必要な基礎知識を事前に学習することを前提とします。受講者は新聞・書籍・論文・インターネット(AI活用含む)など各種メディアを使って関連する知識を収集し、整理をすることを求めます。情報の利用にあたっては出典等を確認し、妥当なものを用いることに注意してください。 ・本授業では写真やビデオ等による記録を行い、広報資料等に活用をいたします。またメディア等による取材等が入ることもあります。受講者の方は本事項をご承諾いただくようお願いいたします。 ・本授業では情報検索やプレゼンテーション等を行うため、パソコンを利用します。インターネット接続が可能なもの(ネットワーク接続は授業を行う場所の環境を利用)、表計算やプレゼンテーション資料が作成可能な環境(例:Word, Excel, PowerPoint等)の準備をお願いします。
(11)質問、相談への対応	・授業に関する質問や相談は、原則、授業中あるいは終了後にのみ受けます。 ・授業に関する連絡はeALPS、メール、SNS(LINE, GoogleChat等)でいたします。 ・対面での相談は事前にご連絡ください メール: yhayashi@shinshu-u.ac.jpへ連絡をお願いします。 研究室: 共通教育第1講義棟南校舎4F研究室(0263-37-2967) ※ただし、担当教員は、外出や打合せが多いため6,7限の時間帯になります ・EメールやLINE等の送付の際は、氏名・学籍番号を必ず記載してください
(12)授業への出席	◎原則、履修する全ての回に出席すること。 ◎連絡/事情なく欠席した場合は1回ごとに5点マイナスをします。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	・本授業は、講義+グループワーク等で構成されます。特に後半はグループワークが中心になりますので、各グループと情報共有を行いキャッチアップしてください。 ・やむを得ない欠席(感染症による出席停止や忌引き等)については、都度ご相談ください。
【教科書】	指定しません。専用のプレゼンテーション及び資料の配布を行います。
【参考書】	○松村真宏(2016)「仕掛学一人を動かすアイデアのつくり方」ISBN13: 978-4492233733, 東洋経済新報社, ¥1,500(税別)。 その他は、随時授業において紹介する。